



2023年6月20日

2022年度（第42期）決算について

- ◆13期連続で経常利益及び当期純利益を計上
- ◆依然として2,297億円余りの長期債務が存在

東葉高速鉄道株式会社（本社：千葉県八千代市 社長：田中 剛）の2022年度（第42期）決算がまとまりましたのでご報告いたします。

【輸送人員】

新型コロナウイルス感染症の度重なる感染拡大の影響を受けたものの、年間輸送人員は5,067万6千人（前年度比14.1%増）、1日平均では14万人となりました。

【決算概要】

コロナ禍からの早期回復に努め、早期の自立経営の確立を目指すことを目的とした「第七次経営改善計画」に基づき、お得な企画乗車券の発売などの増収策及び最大限の経費節減を実施しました。

その結果、旅客運輸収入は142億2百万円（前年度比12.0%増）、関連事業による運輸雑収は4億9千7百万円（前年度比9.1%増）、営業利益は46億6千2百万円（前年度比37.2%増）となりました。

また、営業外費用のうち鉄道建設時の長期債務に係る支払利息が7億8千2百万円にとどまったことから、経常利益38億4千1百万円、当期純利益26億6千8百万円を計上することができました。

しかし、依然として新型コロナウイルス感染症の今後の影響については不確定要素が多く、昨今のエネルギー価格や物価上昇等の影響も含めて引き続き注視が必要であること、また、2,297億円余りの長期債務の存在により債務超過の状態であることに変わりはなく、経営上の大きな課題となっております。

（単位：百万円）

		2022年度 (第42期)	2021年度 (第41期)	増減
営業収益	運輸収入	14,202	12,679	1,522
	運輸雑収	497	456	41
		14,700	13,136	1,564
営業費用		10,038	9,738	300
営業利益		4,662	3,398	1,263
営業外収益		83	82	1
営業外費用		904	1,229	△ 324
経常利益		3,841	2,251	1,589
当期純利益		2,668	1,547	1,120

【参考】

長期債務残高	229,753	235,691	△ 5,937
--------	---------	---------	---------

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

事業報告

〔 2022年4月1日から
2023年3月31日まで 〕

1. 株式会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過及び成果

当社は、1996年4月の開業以来、地域に密着し地域と共に歩む鉄道として、安全・正確・快適な輸送サービスの提供と健全経営の確立に努め、2022年度においても開業以来の運転無事故記録を継続することができました。

一方、新型コロナウイルス感染症の度重なる感染拡大による当社経営への影響は、政府等による行動制限は行われなかったものの2022年度も継続しており、今後の見通しは未だ不透明です。さらに、昨今ではエネルギー価格や物価の上昇等もあり、当社を取り巻く環境は極めて厳しい状況となっております。

このような情勢下において、当社は、2022年度も引き続き事業計画において「新型コロナウイルス感染症対策」、「コロナ禍からの早期回復」、「輸送の安全確保・良質なサービスの提供」を大きな柱と定め、感染症対策の徹底と併せ、「第七次経営改善計画」に基づく施策及び事業を計画的に推進してまいりました。

新型コロナウイルス感染症対策としては、お客様がご利用になる駅の機器や設備の消毒、車両内の抗菌・抗ウイルス処理、窓開けによる車内換気などを行うとともに、駅構内・車内放送やポスター掲示により感染症対策や時差通勤などへの協力の呼び掛けを行いました。

また、厳しい経営面を踏まえ、輸送の安全確保に関する事業を最優先としつつ最大限の経費節減に取り組むとともに、感染症対策に配慮した新しい企画などの実行により、運輸収入及び関連事業収入の確保を図りました。

営業面では、定期券発売所について、従来は北習志野駅及び東葉勝田台駅の2か所で営業を行っていましたが、定期券発売機能を備えた多機能券売機の全駅導入により、当社線内全ての駅で定期券をお求めいただけるようになったため、東葉勝田台駅での定期券発売所の営業を終了し、北習志野駅に集約することで業務の効率化を図ったほか、コロナ禍により影響を受けた旅客需要の喚起を図るため、行楽シーズンを捉えて「春の東葉ホリデーパス」や「夏のおでかけ1日乗車券」等のお得な企画乗車券を期間限定で販売し、定期外旅客の利用拡大に努めました。また、京成バラ園の春のシーズンイベントに合わせて、バラのヘッドマーク等で車両を飾った「東葉ローズトレイン」を運行するなど、駅構内や列車を活用したイベントの開催に努めたほか、コロナ禍の状況を受け2020年度以降開催を見送っていた、「東葉健康ウォーク」及び「東葉家族車両基地まつり」について、感染症対策に配慮して運営方法を見直し、3年ぶりに開催しました。

関連事業では、高架橋の耐震補強工事が完了した八千代緑が丘駅の店舗区画に予備校と児

童発達支援施設、北習志野駅・船橋日大前駅間の地上部に保育園を誘致しました。

安全面では、高架橋の耐震補強、列車制御システムの車内信号方式への改良（CS-ATC化）、列車無線のデジタル方式への改良及びレール・電気通信設備・車両機器の点検・更新などを進めました。また、事故・災害時等の対応能力向上を目的として、例年「異常時総合訓練」を実施しておりますが、2022年度は、他鉄道事業者において発生した駅構内や列車内での犯罪行為や不審者を想定した訓練を警察と合同で実施しました。その他、船橋市からの要請による海老川上流地区への新駅設置について、関係者との協議を進めました。

その結果、2022年度の輸送人員は5,067万6千人（前年度比14.1%増）、1日平均で14万人となり、旅客運輸収入は142億2百万円（前年度比12.0%増）、運輸雑収は4億9千7百万円（前年度比9.1%増）となりました。営業費用面では最大限の経費節減に努め、営業利益は46億6千2百万円（前年度比37.2%増）となりました。また、鉄道建設時の長期債務に係る支払利息が7億8千2百万円（前年度比2億7千4百万円減）にとどまったことから、経常利益38億4千1百万円、当期純利益26億6千8百万円を計上することができました。

(2) 対処すべき課題

鉄道事業者として最大の使命は輸送の安全確保であり、今後も安全を確保するため、安全管理規程に基づき対策を確実に実施してまいります。

また、「第七次経営改善計画」に基づく施策及び事業の着実な実施を通じて、早期の自立経営の確立を目指すとともに、強固な経営基盤の構築に努めてまいります。新型コロナウイルス感染症の影響については依然として不確定要素が多く、昨今のエネルギー価格や物価上昇等の影響もあることから、引き続き、これらの輸送面及び経営面への影響を注視してまいります。

さらに、当社は依然として多額の有利子負債により債務超過の状態であることに変わりはなく、経営上の大きな課題となっております。

引き続き、国、千葉県、船橋市、八千代市による利子補給や、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構による建設資金の償還期間の大幅な延長を実施していただくとともに、今後の支援のあり方などについては、支援関係者と当社で構成する「東葉高速自立支援委員会」においてご検討いただくことになっております。

このように多大な経営支援を賜っている関係各位に対しまして、深甚なる謝意を表すものであります。

株主の皆様におかれましても、これまで同様、当社の置かれております現状について、ご理解、ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

貸借対照表

(2023年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	22,961,901	流 動 負 債	13,870,435
現金及び預金	18,618,060	未払金	10,129,932
未収運賃	1,112,740	未払費用	273,830
未収金	70,900	未払消費税等	167,850
有価証券	3,000,480	未払法人税等	1,051,860
貯蔵品	151,980	預り連絡運賃	745,793
前払費用	7,738	預り金	9,462
固 定 資 産	212,436,637	前受運賃	1,226,667
鉄道事業固定資産	209,891,464	前受金	24,155
建設仮勘定	775,106	賞与引当金	240,883
投資その他の資産	1,770,067	固 定 負 債	222,336,967
投資有価証券	1,000,000	長期未払金	220,200,049
長期前払費用	148	退職給付引当金	1,975,163
繰延税金資産	769,469	圧縮未決算特別勘定	13,600
その他の投資等	450	その他の固定負債	148,155
		負 債 合 計	236,207,403
		純 資 産 の 部	
		株 主 資 本	△ 808,864
		資 本 金	62,600,000
		利 益 剰 余 金	△ 63,408,864
		その他利益剰余金	△ 63,408,864
		繰越利益剰余金	△ 63,408,864
		純 資 産 合 計	△ 808,864
資 産 合 計	235,398,539	負 債 純 資 産 合 計	235,398,539

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

損 益 計 算 書

(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額	
鉄 道 事 業		
鉄 道 事 業 営 業 収 益		
旅 客 運 輸 収 入	14,202,694	
運 輸 雑 収	497,771	14,700,466
鉄 道 事 業 営 業 費		
運 送 費	4,754,039	
一 般 管 理 費	308,952	
諸 税	804,144	
減 価 償 却 費	4,171,320	10,038,457
営 業 利 益		4,662,009
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	1	
有 価 証 券 利 息	23,540	
そ の 他 の 収 益	60,401	83,943
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	782,346	
そ の 他 の 費 用	122,380	904,726
経 常 利 益		3,841,226
特 別 利 益		
工 事 負 担 金 等 受 入 額	174,165	174,165
特 別 損 失		
固 定 資 産 圧 縮 損	172,228	172,228
税 引 前 当 期 純 利 益		3,843,162
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	1,225,074	
法 人 税 等 調 整 額	△ 50,136	1,174,938
当 期 純 利 益		2,668,224

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。